

安全データシート (SDS)

1. 製品及び会社情報

昭和化学株式会社
東京都中央区日本橋本町4-3-8
担当

TEL(03)3270-2701
FAX(03)3270-2720
緊急連絡 同上
改訂 平成26年4月8日
SDS整理番号 08152350

製品等のコード : 0815-2350、0815-2389

製品等の名称 : ふっ化水素酸

推奨用途 : 試薬

参考：その他の用途(当該製品規格に限定されない一般的用途。規格により用途は相違。)
電子工業材料(半導体)のエッチング剤、ふっ素化合物の製造原料、
フロンガス製造原料(冷媒、噴射剤、溶剤、洗浄剤)、除草剤、合成樹脂、
電球・ガラスのつや消し、醸造工業、金属洗浄、メッキ、消火剤、
鋼やステンレスの酸洗、鉍石類の分析用など



2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性

引火性液体 : 区分外
自然発火性液体 : 区分外
自己発熱性化学品 : 区分外
酸化性液体 : 区分外
金属腐食性物質 : 区分1

健康に対する有害性

急性毒性(経口) : 区分3
急性毒性(吸入:蒸気) : 区分3
皮膚腐食性・刺激性 : 区分1A
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 : 区分1
皮膚感受性 : 区分1
生殖細胞変異原性 : 区分2
特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露) : 区分1(呼吸器、脾臓)
特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露) : 区分1(骨、歯、下垂体、甲状腺、腎臓、
神経系、肝臓、精巣、気管支)

環境に対する有害性

水生環境急性有害性 : 区分3

注意喚起語 : 危険

危険有害性情報

金属腐食性のおそれあり
飲み込むと有毒(経口)
吸入すると有毒(蒸気)
重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷
重篤な眼の損傷
アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
遺伝性疾患のおそれの疑い
呼吸器、脾臓の障害
長期又は反復ばく露による骨、歯、下垂体、甲状腺、腎臓、神経系、肝臓、
精巣、気管支の障害
水生生物に有害

注意書き

【安全対策】

すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
個人用保護具や換気装置を使用し、ばく露を避けること。
保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。
屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。
ミスト、蒸気、スプレーなどを吸入しないこと。
取扱い後はよく手を洗うこと。
汚染された作業衣を作業場から出さないこと。
環境への放出を避けること。

【救急処置】

飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。直ちに医師に連絡すること。
吸入した場合：空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
眼に入った場合：直ちに水で15分以上注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易に外せる場合には外して洗うこと。
皮膚（又は毛髪）に付着した場合：直ちに、すべての汚染された衣類を脱ぐこと、取り除くこと。
皮膚に付着した場合：直ちに多量の水と石鹸で洗うこと。
グルコン酸カルシウム2.5～10%含有ゲル(ゼリー)があれば、適量を患部によくすり込む。
汚染された保護衣を再使用する場合には洗濯すること。
皮膚刺激が生じた時、眼刺激が持続する時は、直ちに医師の診断、手当てを受けること。
吸入した時、ばく露した時、気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

【保管】

耐腐食性/耐腐食性内張りのある容器の保管すること。
直射日光を避け、容器を密閉して換気の良い冷暗所に施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

(注) 物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、現時点で「分類対象外」、「分類できない」又は「区分外」である。

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別	：	混合物（ふっ化水素55.0%の水溶液）
化学名	：	ふっ化水素酸 （別名）ふっ酸、フッ水素酸、フッ酸、ヒドリドふっ素酸 （英名）Hydrofluoric acid (TSCA名称)、Fluoric acid、Hydrogen fluoride (EINECS名称)
成分および含有量	：	ふっ化水素、55.0%以上 ふっ素（F）含量＝ $55.0 \times 18.998 / 20.01 = 52.2\%$
化学式及び構造式	：	HF、構造式（水に溶解した状態）は上図参照(1ページ目)。
分子量	：	20.01
官報公示整理番号	化審法：	(1)-306
	安衛法：	公表化学物質（化審法番号を準用）
CAS No.	：	7664-39-3
EINECS No.	：	231-634-8
危険有害成分	：	ふっ化水素 ・労働安全衛生法 通知対象物 政令番号 487 表示対象物 政令番号 30 特化則 特定化学物質 第2類物質 特定第2類物質 作業環境測定基準、作業環境評価基準 ・毒物劇物取締法 毒物「弗化水素を含有する製剤」 ・化学物質排出把握管理促進法（PRTR法）1-374（F：52%） ・消防法 届出を要する物質（30kg以上貯蔵の場合）

4. 応急措置

吸入した場合	：	直ちに、被災者を新鮮な空気のある場所に移す。 被災者を毛布等でおおって体を保温し、呼吸しやすい姿勢で安静にする。 速やかに医師の診断、治療を受ける。 呼吸していて嘔吐がある時は、頭を横向きにする。 呼吸が止まっている場合、または呼吸が弱い場合には衣服を緩め、呼吸 気道を確保した上で人工呼吸（または酸素吸入）を行なう。 気分が悪い時は、医師の手当てを受ける。
皮膚に付着した場合	：	直ちに、汚染された衣類、靴などを脱ぎ、それらをビニール袋に入れ 遠ざける。 速やかに、皮膚を多量の水と石鹸で洗う。 グルコン酸カルシウム2.5～10%含有ゲル(例えば、KYゼリー)があれば、 適量を患部によくすり込む。 皮膚の洗浄が遅れたり、不十分の場合は、葉傷などの障害が残ること がある。 直ちに、医師の手当てを受ける。 皮膚刺激、発疹が生じた時、気分が悪い時は、直ちに医師の治療を 受ける。 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。 汚染された衣類を再使用する前に洗濯する。

目に入った場合	： 直ちに、水で15分以上注意深く洗う。その際、顔を横に向けてからゆっくり水を流す。水道の場合、弱い流れの水で洗う。勢いの強い水で洗浄すると、かえって目に障害を起こすことがあるので注意する。まぶたを親指と人さし指で広げ眼を全方向に動かし、眼球、まぶたの隅々まで水がよく行き渡るように洗浄する。次に、コンタクトレンズを着用していて固着していなければ除去し、洗浄を続ける。 眼の洗浄が遅れたり、不十分の場合は、眼の障害のおそれがある。眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、治療を受ける。眼刺激が消失しても、遅れて障害が現れることがあるので、必ず医師の診断を受ける。
飲み込んだ場合	： 直ちに医師に連絡すること。 口をすすぐこと。 無理に吐かせないこと。 本製品が強酸のため、吐かせると再びノドや食道を刺激・薬傷を生じさせることになり、食道や胃に穴が開く危険性ある。すぐにコップ数杯の牛乳や卵を飲ませ(ない時は水を飲ませる)、毒性を希釈する。
予想される急性症状及び遅発性症状	： 灼熱感、咳、息苦しさ、咽頭痛、胃痙攣、下痢、嘔吐、虚脱、発赤、痛み、水疱、重度の熱傷。
遅発性症状	： 肺水腫、心不全、腎不全。
応急措置をする者の保護	： 救助者は、状況に応じて保護具(保護手袋、酸性ガス用防毒マスクなど)を着用する。
医師に対する特別注意事項	： 安静と医学的な経過観察が不可欠である。
5. 火災時の措置	
消火剤	： 本製品は不燃性である。 周辺火災の種類に応じた消火剤を用いる。 粉末消火剤、二酸化炭素、散水、噴霧水、泡消火剤
使ってはならない消火剤	： 棒状放水（本品があふれ出し、生物に対する有害性や環境汚染を引き起こすおそれがある。）
特有の危険有害性	： 金属と混触すると水素ガスを発生するので、火災や爆発を生じることがある。 火災によって刺激性、腐食性又は毒性のガス及びヒュームを発生するおそれがある。 加熱により容器が爆発するおそれがある。
特有の消火方法	： 危険でなければ火災区域から容器を移動する。 移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。 容器内に水を入れてはいけない。
消火を行う者の保護	： 消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。
6. 漏出時の措置	
人体に対する注意事項、	保護具及び緊急時措置： 危険区域から立ち退く。 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 処理に際して、作業者は適切な保護具（8. ばく露防止及び保護措置の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。 漏洩しても火災が発生していない場合、密閉性の高い、不浸透性の保護衣を着用する。 漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。 関係者以外の立入りを禁止する。 風上に留まる。 低地から離れる。 密閉された場所に立入る前に換気する。
環境に対する注意事項	： 環境中に放出してはならない。 河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。
回収、中和	： 土砂、乾燥砂等に吸収させるなどして、漏出物を全量回収する。 後処理として、漏洩場所は消石灰(10～15%水溶液)を散布して中和し、大量の水で洗い流す。
封じ込め及び浄化の方法・機材	： 危険でなければ漏れを止める。
二次災害の防止策	： 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。
7. 取扱い及び保管上の注意	
取扱い	
技術的対策	： 強酸性物質のため、身体との直接的接触を避ける。 保護具を必ず着用する。 アルカリ性物質、金属、ガラス、コンクリートとの接触を避ける。 火気厳禁（金属と混触すると水素ガスを発生するので、火災や爆発を生じる危険性があるため）
局所排気・全体換気	： 局所排気、全体換気を行なう。
安全取扱い注意事項	： 使用前に取扱説明書を入手すること。 すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。

接触回避	：	眼、皮膚に付けないこと。 ガス、フューム、ミストの吸入を避けること。 取扱い後はよく手を洗うこと。 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
保管	：	湿気、水、高温体との接触を避ける。
技術的対策	：	保管場所の床は、床面に水が浸入し、又は浸透しない構造とすること。 保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。
保管条件	：	直射日光を避け、容器を密閉して換気の良い冷暗所に保管する。 一定の場所を定めて、施錠して保管する。 貯蔵する所には、赤地に白文字で「医薬用外毒物」の表示を行う。
混触危険物質	：	混触危険物質、食品や飼料から離して保管すること。
容器包装材料	：	塩基、金属 ポリエチレン、ポリプロピレンなど。 ガラスは侵されるので、ガラス容器は使用しないこと。

＜参考＞ 容器包装材料の室温における耐薬品性（あくまでも目安、保証不可、実用試験確認必要）

【 ◎:良好 ○:やや良好(条件による) △:やや不良 ×:不良 -:データなし 】

スチレングム× クロロプレンゴム(ネオプレン)× ニトリルゴム× ブチルゴム×
天然ゴム× シリコンゴム× フッ素ゴム(バイトン、ダイエル)○ テフロン◎
軟鋼× ステンレス(SUS304ー SUS316ー) チタンー アルミニウム× 銅○
軟質塩ビ× 硬質塩ビ◎ ポリスチレンー ABS○ ポリエチレン◎ ポリプロピレン◎
ナイロン× アセタール樹脂ー アクリル樹脂○ ポリカーボネート◎ ガラス×
ルビーガラス○

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	：	0.5ppm
許容濃度（ばく露限界値、生物学的ばく露指標）：		
日本産衛学会（2010年版）		3ppm 2.5mg/m ³ （最大許容濃度）（HFとして）
ACGIH（2010年版）	TLV-STEL	2ppm（フッ素として）（上限値）
	TLV-TWA	0.5ppm
設備対策	：	この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置する。 ミスト、蒸気、ガスが発生する場合、換気装置を設置する。
保護具		
呼吸器の保護具	：	呼吸器保護具（酸性ガス用防毒マスク）を着用すること。 高濃度の場合：送気マスク又は空気呼吸器等）を着用すること。
手の保護具	：	不浸透性の保護手袋を着用すること。 ニトリルゴム及び塩ビは、適切な保護材料ではない。 ポリエチレン又はテフロン製のゴム手袋が、耐腐性がある。
眼の保護具	：	保護眼鏡（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）を着用する。
皮膚及び身体の保護具	：	長袖作業衣を着用する。 必要に応じて保護面、保護長靴を着用する。 一切の接触を防止するにはポリエチレン製の、手袋、エプロン、ブーツ、又は全体スーツ等の不浸透性の防具を適宜着用する。
衛生対策	：	取扱い後はよく手を洗うこと。 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。 酸性ガス用防毒マスクの吸着剤は定期的に交換するか、使用頻度に応じて交換すること。 保護具は保護具点検表により定期的に点検する。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態、形状、色など	：	無色澄明液体。 空気中で発煙性がある。
臭い	：	刺激臭
pH	：	強酸性
融点	：	-37℃
沸点	：	96.0℃
引火点	：	不燃性
爆発範囲	：	不燃性
蒸気圧	：	122kPa (25℃)(フッ化水素)、 276.0kPa (50℃)(フッ化水素)
蒸気密度（空気 = 1）	：	0.69（フッ化水素）（計算値）
比重（密度）	：	1.19（20℃）
溶解度	：	水に混和しやすい(溶けやすい)。 エタノールに混和しやすい(溶けやすい)。 ジエチルエーテルにほとんど混和しない(溶けない)。
オクタノール/水分分配係数	：	データなし
自然発火温度	：	不燃性

分解温度	: データなし
臭いのしきい(閾)値	: 0.042ppm
燃焼性(固体、ガス)	: 不燃性
粘度	: データなし

10. 安定性及び反応性

安定性	: 通常の取扱条件において安定である。 容器の栓をはずすと(開放状態にすると)、腐食性のふっ化水素ガスを放出する。 種々の物質と反応する。
危険有害反応可能性	: 水溶液は強酸性であり、塩基と極めて激しく反応する、多くの金属を腐食し、引火性・爆発性の水素ガスを生成することがある。 多くの化合物と激しく反応し、火災や爆発の危険性をもたらす。 金属、ガラス、ある種のプラスチック、ゴム、被膜剤を侵す。 陶磁器、珪素、けい酸塩、コンクリートなどを侵し、溶かす。 (7. 取扱い及び保管上の注意の項を参照のこと。) ガラス又はシリカとの反応で、4フッ化ケイ素を発生する。
避けるべき条件	: 日光、熱
混触危険物質	: 塩基類、アミン類、金属、ガラス、コンクリート、2-アミノエタノール、クロロスルホン酸、窒素酸化物、発煙硝酸、酸化プロピレンなど
危険有害な分解生成物	: ふっ素化合物、水素

11. 有害性情報

急性毒性	: 経口 ヒト(男) TDLo= 143 mg/kg (RTECS) モルモット TDLo= 100 mg/kg 飲み込むと有毒(経口) (区分3) 経皮 マウス LDLo= 500 mg/kg (RTECS) データ不足のため分類できない。 吸入(蒸気) ヒト(男) TDLo= 100 mg/m3/1分間 (RTECS) ラット LC50= 0.79mg/L/1H (CERIハザードデータ集 2001-46 (2002)), 1.915mg/L/1H (EU-RAR No.8 (2001), CERIハザードデータ集 2001-46 (2002)), 1.828mg/L/1H, 1.909mg/L/1H, 1.069mg/L/1H, 0.792mg/L/1H, 1.136mg/L/1H (EU-RAR No.8 (2001)), 1.317mg/L/1H (ATSDR (2003)), 1.069mg/L/1H, 1.14 mg/L/1H (PATTY (4th, 2000)) 以上のデータから計算式を適用して得た値(650ppm/4H)から、区分3とした。 吸入すると有毒(蒸気) (区分3)
皮膚腐食性・刺激性	: 動物を用いた眼刺激性試験(EU-RAR No.8 (2001), PATTY (4th, 2000), ATSDR (2003), CERIハザードデータ集 2001-46 (2002))及びヒトへの健康影響で、皮膚腐食性が認められている。またウサギを用いた5%水溶液の4時間適用試験の14日間の観察でカ皮がみられていることから区分1Aとした。 重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷(区分1A)
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	: 動物を用いた眼刺激性試験(EU-RAR No.8 (2001), ATSDR (2003), CERIハザードデータ集 2001-46 (2002))及び高濃度全身吸入ばく露の事故報告(ATSDR (2003))で、非可逆的作用を示し、腐食性を有すると考えられることから、区分1とした。 重篤な眼の損傷(区分1)
呼吸器感作性又は皮膚感作性	: 呼吸器感作性: データがないため分類できない。 皮膚感作性: 職業的にばく露されたヒトにおいて、アレルギー性皮膚炎がみられている(CERIハザードデータ集 2001-46 (2002))ことから、区分1とした。 アレルギー皮膚反応を起こすおそれ(区分1)
生殖細胞変異原性	: 経世代変異原性試験なし、生殖細胞 in vivo 変異原性試験なし、体細胞 in vivo 変異原性試験(染色体異常試験)で陽性、生殖細胞 in vivo 遺伝毒性試験なし(EU-RAR No.8 (2001))。 以上のことから、区分2とした。 遺伝性疾患のおそれの疑い(区分2)
発がん性	: IARC, ACGIH, NTP, EPAに記載がないため、分類できない。
生殖毒性	: データがないため分類できない。
特定標的臓器・全身毒性 (単回ばく露)	: ヒトで、気道や肺の損傷、鼻粘膜への刺激性、眼結膜や気道への刺激性(EU-RAR No.8 (2001)), 肺水腫、肺の出血性水腫、気管支炎、脾臓の出血及び壊死(CERIハザードデータ集 2001-46 (2002))、実験動物で、呼吸器の炎症、肺のうっ血、肺胞の水腫、鼻腔粘膜の損傷(上皮及び粘膜下組織の壊死、炎症細胞浸潤、滲出液、出血)が報告されている(CERIハザードデータ集 2001-46 (2002))。 以上のことから、区分1(呼吸器、脾臓)とした。 呼吸器、脾臓の障害(区分1)
特定標的臓器・全身毒性 (反復ばく露)	: ヒトで、骨へのフッ素沈着症(骨密度の増加、骨の形態的变化、

外骨(腫)症)、斑状歯、記憶の喪失、下垂体から甲状腺の機能異常)、実験動物で、腎臓の尿細管の変性及び壊死、中枢神経系の機能不全(条件反射の低下、刺激後、運動神経反射が起こるまでの潜時の延長)、神経細胞シナプスの変化、肝臓の散在性の巣状壊死、肝実質の脂肪変性、門脈周囲の線維化、陰嚢上皮の炎症、陰嚢の潰瘍、精巣の退行性変化が報告されている(CERIハザードデータ集 2001-46 (2002))。標的臓器は骨、歯、下垂体、甲状腺、腎臓、神経系、肝臓、精巣、気管支と考え、区分1とした。長期又は反復はく露による骨、歯、下垂体、甲状腺、腎臓、神経系、肝臓、精巣、気管支の障害(区分1)

吸引性呼吸器有害性： データがないため分類できない。

12. 環境影響情報

生態毒性：

甲殻類

ミシッドシュリンプ EC50 10.5mg/L/96H (EU-RAR No.8 (2001))
オオミジンコ NOEC 14.1mg/L/21日 (EU-RAR No.8 (2001))
から、区分3とした。
水生生物に有害(区分3)

残留性・分解性

： 情報なし。水に溶けやすいので環境へ容易に拡散する。

生体蓄積性

： 長期間にわたり環境に流出すると、ふっ素イオンが骨や歯に蓄積
することがある。

オゾン層への有害性

： 本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていない
ため、分類できないとした。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

： 廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。
都道府県知事などの許可(収集運搬業許可、処分業許可)を受けた産業廃
棄物処理業者に、産業廃棄物管理票(マニフェスト)を交付して廃棄物処
理を委託する。
廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の
上処理を委託する。
本品は、特別管理産業廃棄物のため、廃棄においては特に「廃棄物の処理
及び清掃に関する法律」の特別管理産業廃棄物処理基準に従うこと。
本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、
そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。

(参考) 沈殿法

大量の消石灰水溶液中に、少しずつ添加して中和し(発熱に注意
すること)、沈殿物を生成させる。この沈殿物をろ過して集め、
埋立て処分する。(注意点：中和時のpHは、8.5以上とすること。
これ以下では、完全に沈殿生成しない。)
上澄み液(ろ液)は、pH5.8~8.6、F：規制値以下として排水処分
する。Fの規制値：海域以外の公共用水域では8 mg/L、海域では
15 mg/L。

別途、F排出規制の地域条例がある場合は、それに従う。

汚染容器及び包装

： 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準
に従って適切な処分を行う。
空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

緊急時応急処置指針番号 : 157

国際規制

海上規制情報(IMO/IMDGコードの規定に従う)

UN No. : 1790
Proper Shipping Name : HYDROFLUORIC ACID solution, with not more than
60% hydrofluoric acid
Class : 8 (腐食性物質)
Sub Risk : 6.1 (毒物)
Packing Group : II
Marine Pollutant : No (非該当)
Limited Quantity : 1L

航空規制情報(ICA0-TI/IATA-DGRの規定に従う)

UN No. : 1790
Proper Shipping Name : Hydrofluoric acid solution, with not more than
60% hydrofluoric acid
Class : 8
Sub Risk : 6.1
Packing Group : II

国内規制

陸上規制情報(毒物劇物取締法、道路法の規定に従う)

海上規制情報(船舶安全法/危険物船舶輸送及び貯蔵規則/船舶による危険物の運送基準等
を定める告示に従う)

国連番号 : 1790

品名	： フッ化水素酸（フッ化水素酸の濃度が60質量%以下のものに限る。）
クラス	： 8
副次危険	： 6.1
容器等級	： II
海洋汚染物質	： 非該当
少量危険物許容量	： 1L
航空規制情報（航空法/航空法施行規則/航空機による爆発物等の輸送基準を定める告示に従う）	
国連番号	： 1790
品名	： フッ化水素酸（酸の濃度が60質量%以下のもの）
クラス	： 8
副次危険	： 6.1
容器等級	： II
少量輸送許容物件	： 0.5L
許容量	： 0.5L
特別の安全対策	： 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。 重量物を上積みしない。 移送時にイエローカードの保持が必要。

15. 適用法令

労働安全衛生法	： 名称等を通知すべき有害物 （政令番号 第487号「弗素及びその水溶性無機化合物」） （法第57条の2、施行令第18条の2別表第9） 名称等を表示すべき有害物 （施行令第18条第30号「弗化水素」） 特定化学物質第2類物質、特定第2類物質 （特定化学物質障害予防規則第2条第1項第2，3号） 作業環境測定基準、作業環境評価基準
化学物質排出把握管理促進法（PRTR法）	： 平成21年10月1日改正PRTR法施行後、 ・種 別 第1種指定化学物質 ・政令番号 「第374号」 ・物質名称 「ふっ化水素及びその水溶性塩」 （改正前PRTR法：1-283）
毒物劇物取締法	： 毒物「弗化水素を含有する製剤」（政令第1条第24号）、 包装等級II
消防法	： 消防活動阻害物質 政令第1条の10 「届出を要する物質」（30kg以上貯蔵する場合）
道路法	： 車両の水底トンネルの通行禁止「毒物」（施行令第19条の12）
船舶安全法	： 腐食性物質（危規則第2，3条危険物告示別表第1）
航空法	： 腐食性物質（施行規則第194条危険物告示別表第1）
大気汚染防止法	： 有害物質「弗素、弗化水素及び弗化珪素」（政令第1条第3号） 特定物質「弗化水素」（政令第10条第2号） 有害大気汚染物質「フッ化物（水溶性無機化合物に限る）」 （中環審第9次答申の194）
水質汚濁防止法	： ①有害物質（施行令第二条） 「ふっ素及びその化合物」 〔排出基準〕8mg/L(F,海域以外)，15mg/L(F,海域) ②生活環境項目（施行令第三条第一項） 「水素イオン濃度」 〔排水基準〕・海域以外の公共用水域に排出されるもの 5.8以上8.6以下 ・海域に排出されるもの5.0以上9.0以下
土壌汚染対策法	： 特定有害物質
輸出貨易管理令	： ①輸出許可品目 別表第1、No.3-1 軍用の化学製剤の原料となる物質 「フッ化水素」 ②キャッチオール規制 別表第1、No.16 第28類 無機化学品 HSコード（輸出統計品目番号、2014年4月版）：2811.11-000 「ふっ化水素（ふつ化水素酸）」

16. その他の情報

（注）本品を試験研究用以外には使用しないで下さい。

取扱注意事項：

本製品の取扱いは毒物劇物取締法の規定に従い、購入、保管、使用及び廃棄には細心の注意を払うこと。毒物劇物取扱等の責任者は、必要に応じ取扱う者に対し労働安全衛生、漏洩防止、緊急時の対応、環境影響、使用記録、保管庫施設、紛失盗難防止などについて教育、訓練を実施し、事故の予防に努めること。

参考文献：化学物質管理促進法PRTR・MSDS対象物質全データ 化学工業日報社

労働安全衛生法MSDS対象物質全データ	化学工業日報社(2007)	
化学物質の危険・有害便覧	中央労働災害防止協会編	
化学大辞典	共同出版	
安衛法化学物質	化学工業日報社	
産業中毒便覧(増補版)	医歯薬出版	
化学物質安全性データブック	オーム社	
公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編)	三共出版	
化学物質の危険・有害性便覧	労働省安全衛生部監修	
Registry of Toxic Effects of Chemical Substances	NIOSH CD-ROM	
GHS分類結果データベース	nite(独立行政法人 製品評価技術基盤機構)	HP
GHSモデルMSDS情報	中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター	HP

このデータは作成の時点においての知見によるものですが、必ずしも十分ではありませんし、何ら保証をなすものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。